

未来に向けて

太田市立太田中学校 二年 岡本 悠愛

今年の夏休み、母と買い物をするため東京に行った。行くたびに感じるが、東京はきびやかで、私が住んでいる群馬県とは違う良さがあつた。人々の明るい声で賑わつていて、電車も三から四分に一本。とても便利だつた。そして群馬にはない珍しくて興味深い店があつて、高いビルがたくさん建つてゐる。東京のいいところを考えると、このようにたくさん出てくるし、とてもわくわくする。私は将来東京のような都会で生活してみたい。そう思うようにもなつた。

だが、それとは反対に、気になる部分があつた。新宿の高架下を通つていたとき。たくさんのおもむきで、私が寝床を作つて住んでいた。駅では、私とあまり変わらない年の女の子が、私、今日から薬物やめる。絶対！と仲間と大声で話してゐる姿を見かけた。学校で違法薬物やODについて学ぶ機会があつて

も、本当に薬物を摂取している同年代の人達がいるということがなかなか信じられないでいたが、実際に見て聞いてしまい、衝撃を受けた。それからずっと、高架下での出来事や駅で聞いた言葉が頭から離れないでいた。きれいなビル、おしゃれな店、美味しい食べ物、人々の楽しそうな声。ホームレス、違法薬物、OD。どちらも同じ世界で起こっていることだ。そのギャップが衝撃的だった。

実際にホームレスの実態や中高生の薬物摂取について調べると、ホームレスは大阪、東京、神奈川の順に多く、東京は五百七人。そのうちの二十%が新宿区で生活しているそうだが。四十七都道府県中三十五都道府県にホームレスの方たちがいて、正確な人数はわからないが群馬県にも三十から五十人ほどのホームレスが生活しているということが分かった。そして中高生の薬物については中学生が〇点五五%、およそ百八十人に一人。高校生が一四%、七十人に一人薬物を摂取しているこ

とがわかった。中学生の学年別、摂取量は中学二年生が一番多く百四十人に一人の割合だといふことが分かった。

中学二年生というところ、今の私の学年になる。生まれてから十四年しか経っていないのに何がぎっかけて藥物に手を出してしまうのか。十四歳は中学校生活にも慣れてきて大人への移行期とされているという。学校や人間関係から感じる疲れや生きがいさを感じてしまう人もいるかもしれない。そして、SNSサイトなどで簡単に手に入れられる環境になっているのではないかと考える。

ホームレスの人々は周辺を通る人々から軽蔑されながら生活しているという。実際、私も少し高架下を通るときどこを見たかいいのかわからず、通るのをためらってしまった。そして同時に、この人たちはどんな気持ちでここににいるのだろうか。何か直接的ではなくてもできることがあるのではないかと感じた。まず、ホームレスへの正しい知識を取り入れ

ること、そして支援団体への募金など、決してホームレスを他人事にしないことが大切だ
と思った。実際支援団体やボランティアはホームレスの方たちに食料品などを寄付したり、ホームレス向けの求人募集も存在した。ある女性ホームレスについての記事を読んでみると、重い悩みを抱えている学生の相談相手になったり、手料理を振る舞いながら生活をしているという。同じ境遇の人同士で助け合いながら生きていて、つらい日々ばかりではない。そう話していた。

私が憧れている東京で体験した出来事。あまりに衝撃的だ、たためホームレスの人々や薬物に手を出してしまう学生を軽蔑しかけてしまったが、それぞれの境遇、背景があるということが分かった。でも、違法薬物に関しては許されることではないと思う。薬物摂取している今は楽しいかもしれないが、その先の未来を真剣に考える事が大切だし、自分の人生を壊してしまう恐れしさを知り、始める

前に、いや絶対に手を出さないと強く考え直すことが必要だと感じた。私も辛いことがある。たゞ必ず信頼できる家族や友達に相談するようにしたいし、困っている人がいたら相談に乗ったり、相手の気持ちによりそいたい。それらの行動が、やがて未来の社会を明るくすることにつながればいいなと思う。